

シュガーロードと佐賀文化



井澤知旦

【長崎街道をシュガーロードと呼ぶ】

先般（2025年11月上旬）、佐賀市で日本都市学会全国大会がありました。大会の前日にエクスカッション（まち歩き）があり、そこに参加した際、長崎街道（長崎～小倉）のことをシュガーロードと呼んでいることを初めて知りました。この命名は1980年代のようです。

戦国時代（16世紀）から砂糖は輸入されていましたが、江戸時代の鎖国以降、オランダや中国から大量に輸入され、長崎を通じて、国内に広まっていったようです。国内で黒砂糖でなく、白砂糖が生産されたのは18世紀末であり、香川や徳島の和三盆が有名です。

さて、佐賀市内のシュガーロード（長崎街道）に残された柳町や呉服町の町並みについて、佐賀市役所の方に説明をしていただきました。分かりやすい解説でしたが、その方の苗字がムトウさん。シュガーロードの解説なのだから、ベストはサトウさん、次善はカトウさん。真逆の苗字ではないか！しかし、それを売りしていけば、受けるなあとムトウさんに伝えておきました。

長崎街道 シュガーロードのルート



出典：https://sugar-road.net/sugar_culture/

【2大製菓会社の創設者の出身地】

砂糖食文化を育んできた佐賀ですが、当地出身で今日でも全国区の製菓会社の創始者、森永製菓（1899年創業）の森永太郎（1865～1937）と江崎グリコ（1921年創業）の江崎利一（1882～1980）とも佐賀出身です。厳密に言うと、森永氏は伊万里市、江崎氏は佐賀市です。佐賀駅から佐賀城を結ぶ中央大通りに二人の銅立像がワンセットで並んでいます。そしてそれぞれの手には森永ミルクキャラメルとゴールインマークの入った江崎グリコキャラメルが握られています。身長差があるので、等身大で制作しているのでしょう。シュガーロードがどの程度、製菓会社の創業と関わっているのか不明ですが、砂糖が好きなのは確かで、江戸の町人の虫歯率が11.7%であるのに対し、小倉のそれは26.9%と倍以上の開きがあったようです。（日本遺産 砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロード～ガイドブック 2021年版 2ページ参照）



佐賀駅と佐賀城を結ぶ中央大通りに置かれた、森永太郎（左）と江崎利一（右）の等身大立像。それぞれの手にキャラメルの箱を握りしめている。

【恵比寿が見守る福の街】

佐賀市のもう一つの特徴は恵比寿の石像が至る所にあり、830 体以上あると言われています。商売の神であり水の神でもあるので、商売繁盛と水運の無事を願って、設置されたのではないかとされています。他の説では、鍋島藩初代藩主の鍋島勝茂公が、「えびす宮 総本社・西宮神社」（兵庫県西宮市）に崇敬が深かったことに由来するとも言われています。なお、恵比寿は七福神の一つで、唯一日本の神です。残りはインドと中国の神が三つずつとなっています。いずれにせよ、その数では日本一を誇っており、街中には恵比寿ステーションがあり、そこには恵比寿ガイドブックが配架されています。まさに恵比寿様（大阪では“えべっさん”と呼びます）が見守る街と言ってよいでしょう。



左：まち角にある恵比寿様。市内の至るところにあり、830 体あると言われている。商売繁盛・水運安全の神様である。
右：佐賀駅のホームに設置された大きな恵比寿様。土台の銘版には「旅立ちの恵比寿」と書かれている。胸のところに栗のようなものが3つ描かれているが、これを宝珠と呼び、「意のままに、様々な願い事を叶える宝の珠」と言われているので、撫でながら願うと叶うらしい。ホンマかいな！

【佐賀の偉人立像】

佐賀に関わる偉人の等身大銅立像は25 体もあります。これは2018 年3 月から8 か月間、明治維新150 周年を記念して「肥前さが幕末維新博覧会」が開催された際に、佐賀駅から博覧会会場までの中央大通り（約1.5km）を楽しみながら歩いてもらおうと設置されたものです。上述した森永氏と江崎氏の立像もそこに含まれています。全国区の偉人から地元の偉人まで、佐賀市出身から佐賀市にゆかりのある人まで、いろいろですが、これだけの数を並べられると「これでもか！」というくらい迫力があり、偉人排出力が高い佐賀を想起させます。



佐賀駅前近くに設置された3人の偉人像。中央の鍋島直正（佐賀藩10代藩主）、右は鍋島茂義（佐賀藩武雄領主で藩主直正の義兄）、左は古賀穀堂（藩主直正の教育担当）。なお藩主直正は佐賀藩を雄藩に躍進させた功労者で、両サイドの二人は彼を支えた。



さが維新広場には7人の偉人像がまとまって設置されている。テーマは「弘道館で学んだ若き日の賢人たち」。弘道館は藩校であり、教育に力を入れていた。その7人とは大隈重信、副島種臣、枝吉神太陽、島義勇、佐野常民、江藤新平、大木喬任である



このような等身大銅立像が 25 体、中央大通りに設置されている。偉人排出の佐賀を演出する有効な方法かもしれない。

【大きな看板は市民性を印象づける？】

それとは逆効果なのが「浮気調査」の看板です。たった二ヶ所ですが、バカでかい看板であるがゆえに、佐賀市民は浮気性ではという強い印象を人々に与えてしまいます。もちろん半分冗談ですが、半分は印象づけ成功の事例です。



二つの浮気調査会社の看板が佐賀のイメージを形成するうえでインパクトは大きい。両方とも探偵は女性のような顔出し看板だと尾行しづらい？ひょっとして生成 AI に書かせた女性イメージかも知れない。

それよりも樹木 70 年の天寿を全うして伐採された切り株に「お疲れ様でした」と小さな看板を立てる心優しさこそ、佐賀の市民性が現れているような「木」がします。



寿命が来て伐採された樹木に感謝の気持ちを添えた小さな看板。佐賀市民の優しさがここにあらわれている。このような看板が至る所にあれば、佐賀の心配りのある市民性を十分にアピールできる。

【おわりに】

はじめての佐賀市は、歴史の重みがあり、好印象を持って帰名しました。47 都道府県で佐賀県の魅力度ランキングは 47 番目から 45 番目に二つ上がった（2025 年調査）と九州都市学会長が発言されていましたが、うまく地域の魅力を発信できていないせいかも知れません。さらにもう一つ、全国で地震が最も少ない県であることも言及されていました。調べてみると過去 100 年間で震度 1 以上の地震の回数で比較すると、佐賀県は富山県に次いで地震の少ない県であることが判明しました（<https://bousai-chie.com/jishin-sukunai-ranking/>）。安心安全な県こそ、これからの魅力度を高める大きな要素になるかもしれません。